分子科学者のための大学院

分子科学研究所所長　中村　宏樹

1965年東京大学数物科学研究科修士課程修了．同年同大学工学部物理工学科助手，1971～1973年アメリカ合衆国博士研究員，1974年東京大学講師，1979年東京農工大学助教授，1981年分子科学研究所教授，2004年より現職．工学博士

総合研究大学院大学は1988年に、全国の大学共同利用機関を基盤機関として、新しい理念と組織の下に創設された博士課程だけを有する大学院大学である。本部を神奈川県葉山町に置き、学生のみならず研究者自身の総合性と学際性を高めることを目指して、学生セミナー、国際セミナー、共同研究等々のユニークな活動を本部で行いつつ、平素の授業や研究活動は各基盤研究機関において行っている。今までに、志の高い研究意欲のある多くの学生を各大学から受け入れ、有為の若手研究者を世に送り出している。既に、大学や研究所で中心的スタッフとして活躍している人も数多い。

平成16年度から総合研究大学院大学は、他の国立大学と同様に国立大学法人として新たなスタートを切った。大学共同利用機関も別途再編を行い新しい研究機構法人（自然科学研究機構、情報・システム研究機構、高エネルギー加速器研究機構、人間文化研究機構）となったが、総研大はこれら機構との新たな連携体制の基に更なる発展を目指している。実際には、独立行政法人である宇宙航空研究開発機構とメディア教育開発センターの一部をも加えて6研究科（物理科学研究科、複合科学研究科、生命科学研究科、高エネルギー加速器科学研究科、文化科学研究科、先導科学研究科）・21専攻からなる体制をとっている。

分子科学研究所は小さい分子から生体分子や液体、固体までに至るあらゆる分子の構造と機能に関する総合的研究を理論と実験の両面から行っているが、総合研究大学院大学の拠点基盤研究機関の一つとして構造分子科学専攻と機能分子科学専攻の二つの専攻を有し、核融合科学専攻、天文科学専攻及び宇宙科学専攻と共に物理科学研究科に所属して、1学年それぞれ6名の定員枠を有している。平成18年度からは物理科学研究科においても5年一貫制が導入された。分子科学研究所2専攻の大学院担当教員は約70名におよび、皆、それぞれの専門分野において国際的な第一線級の研究者として国内外で活躍している。分子科学研究所は、世界的水準で優れた多くの研究設備・施設を有しており、また、客員教員から博士研究員までに及ぶ多くの外国人研究者の受け入れ、国際的なセミナーの開催等々国際的環境にも溢れている。外国人留学生も多く受け入れている（今までの受入れ数は40名を越える）。この様な優れた環境の下で基礎科学としての分子科学研究のフロンティアを体感し、自らも殻を打ち破る様な新しい研究成果をもたらす切磋琢磨の努力がなされることを心から望んでいる。そして、新しい世紀の未来の科学を自らの手で創造するのだという気概を持った若手が育っていくことを期待している。また、総合研究大学院大学では上述した学生セミナーなどの活動を通して、異なる分野の学生が交流を深め得る機会も多く準備されている。この様な交流は若い研究者の思考に新しい次元を加える意味で大変意義深いことである。

本冊子は、分子科学研究所の構造分子科学と機能分子科学の2専攻における学生生活や教育・研究の実態を紹介すると同時に、2専攻に所属する教員を紹介し、学生諸君が自らの意志と意欲に基づいて新しい分子科学への挑戦の道を選ぶ為の資料を提供している。厳しい研究生活の中にも、優れた設備と環境の中で研究の楽しさを見出し、未来への希望を持って果敢に挑戦していく意欲ある学生諸君の入学を歓迎する。